

資料を基に人々の行為の意図や意味を考えさせる資料提示の工夫と、
学び合い・伝え合い場面における ICT 機器（タブレット PC）の有効活用
～ 5年社会科「水産業の盛んな地域」～

見附市立見附小学校 教諭 草分智昭

1 わたしの授業の課題と目指す子どもの姿

日頃の自分自身の社会科の授業を振り返り、子どもたちに「資料から必要な情報を集めて読み取る力」や「考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う力」を伸ばしたいと考えた。そこで、子どもが観察・調査を通して社会的事象を理解し、さらに、そこに携わる人々の行為の意図や意味にも気付くようにしたい。また、表現する場を設け、子どもの表現力を伸ばすように授業改善を行った。人々の行為の意図や意味を明らかにしていく過程では、子ども同士の「学び合い・伝え合い」の交流活動が必要である。その際、ICT 機器（タブレット PC）の「意見集約ソフト」の活用を試みる。そうすることで、一人一人の考え方を生かした授業につながると考えた。以下のように本単元を実践した。

2 単元の指導計画

① 漁業を身近に感じさせる導入の工夫

新聞広告を活用した魚介類産地マップの作成

「お店には外国産の魚介類がたくさんある。日本産よりもかなり多い」

→学習課題の成立

「日本の周りは海で魚は捕れるはずなのに、どうして外国からたくさん輸入をしているのか」

② 水産業に関する知識を獲得させる

→予想～調査～解決～新たな疑問…の連続

- ・日本の周りでは魚があまり捕れないのではないかな
- ・日本では捕れない魚を輸入しているのではないかな
- ・捕る量が足りないから輸入しているのではないかな「食生活の変化、乱獲、漁場の変化、輸送技術の発達など様々な変化が、輸入増加に結び付いていること」

③ 漁業に携わる人の行為の意図や意味に気付かせる（具体例を取り上げて）

→寺泊の沿岸漁業の漁師・Kさんの漁の工夫

<学び合い・伝え合いと ICT 機器の有効活用>

④ これからの漁業の在り方を考えさせる

→魚を守り育てる漁業の実際

3 具体的な手立てと子どもの変容（③具体例をもとに、人の行為の意図や意味に気付かせる場面）

寺泊の漁師Kさんの実際の様子から学習した。「Kさんは漁に行くとき、これを持って行くのだそうです。」【資料ア・イ・ウを提示】

<資料ア 定規>

<資料イ 網>

<資料ウ スケジュール>



曜日	漁を許す時間
月	5:00～7:00, 14:00～16:00
火	5:00～7:00, 14:00～16:00
水	5:00～7:00, 14:00～16:00
木	
金	5:00～7:00, 14:00～16:00
土	5:00～7:00, 14:00～16:00
日	5:00～7:00

資料アは、獲った魚の大きさを測定する器具。資料イは目の大きい網。資料ウは、漁の週間スケジュール表である。子どもたちには説明をせず、資料を画像にして提示した。

【発問 1】寺泊の漁師Kさんの漁には、どんな工夫が隠されているのだろう。Kさんの漁の工夫を、この3つの資料を使って、説明してみましょう。

【個人思考】自分の考えを意見集約・話し合い支援ソフトに入力し、意見を交流する。

(A児) アの定規で魚の大きさを測って、小魚を捕らないようにしている。わかった、これはわざと逃がしているんだ！

(A児) ウの意味がよくわからない。これが工夫になるの？みんなはどう考えているのかな？みんなの意見を聞きたいな。

3つの資料から1つ以上選んで、自分が気付いた工夫を説明させた。その際、子どもに一台ずつタブレット PC を渡し、「意見集約・話し合い支援ソフト」に投稿させた。A児は、まず資料アに着目した。定規の目盛りや絵から、漁師が魚の大きさを測るものだと考えた。そしてそれは魚を逃がすという工夫のために使っているのだと想像し、自分の意見として投稿した。続いて資料ウにあたったが、ウからは漁師の工夫を見付けることができなかった。(資料イは、時間が足りず手を付けなかった。)



【集団思考】意見集約ソフトで、瞬時に大勢の子どもを見取る

投稿を締め切ると、投稿された全ての意見が一画面で読めるようになる。考えの似ているものやきらりと光る少数意見などを画面上から検索し、教師が子どもを指名したり、子どもに相互指名させたりして、説明や補足、意見交流をさせた。A児は、資料アから、「Kさんは定規で測って、小さい魚をわざと逃がしている。」と説明した。仲間の理解を得られて、満足感をもったA児は、イやウについての工夫を理解したいと願い、仲間の意見に耳を傾けていた。イは漁で使う網だが、網目が大きい。B児が「小さい魚は網目をすり抜ける」と発言したことで、A児は「(アから考えた)自分の考えと同じだ」とつぶやいた。A児は仲間と自分の意見の共通性から、漁師が行っている工夫に気付くことができた。

次に、行為の意図や意味を子どもに問う。

【発問2】Kさんは何のためにこんな工夫をしているのでしょうか。

【学び合い・伝え合い】

子どもたちはKさんの行為の理由を、〇〇のため、という言葉づかいで説明した。意見の交流を通して、Kさんの行為の全てが、「魚の乱獲を防ぎ、守りながら漁を続けるため」にしていると、その共通性に気付き、結論付けた。さらに【追加資料「Kさんからの手紙」】を提示した。子



小魚を逃がすことは、「捕りすぎ」を防ぐためです。



まず目の大きい網を使うのは、小さい魚はすり抜けるので、魚を守るためです。来年大きく成長したら捕まえます。

どもたちが気づけなかった資料ウの工夫は、この追加資料から説明した。Kさんは仲間たちと組合を結成し、「水産資源を守るルール(漁ができる時間を設定している=禁漁日を設けている)」を自ら設けていることを知り、ここにも共通性があることに気付き、Kさんの行為の意図を理解した。

4 おわりに

資料の提示とその活用が社会科の重要な手立てである。今回は、漁師の行為が想像できる資料を複数提示した。資料から見えてくることの共通性から、行為の内容を気付かせた。そしてそこにとどまらず、漁師がなぜ・何のためにそうしているのかと、理由を問い直したことで、子どもたちが漁師の行為の意図や意味まで深く考えることにつながった。このように資料提示の工夫を行うことで、子どもたちの追求が深まりを見せることが分かった。

また、タブレット PC による意見集約は、意見を投稿することが口頭で発表したことと同様の行為となることが分かった。発言による説明を苦手とする子も授業参加を果たせ、満足感を得られた。また短時間に一つの画面で全ての意見に触れられる即時性も魅力である。しかし、機器やソフトを使うまでに、操作方法や扱い方の指導・習熟の時間が必要である。導入へのハードルは決して低くない。ICT 機器が有効に活用される授業場面を適切に見極めつつ、日々実践を重ねていきたい。